

社会学部報

- ◇1月29日 学部研究会 発表者 萬成博助教授「日本の近代化とビジネス・エリート」、丹羽春喜講師「単純な連立方程式計算モデルによる社会主義計画経済体制の成長分析」
- ◇4月1日 余田博通教授が、大道安次郎に代って学部長に就任。
大道教授は関西学院および関西学院大学図書館長に就任。
西尾朗教授、倉田和四生助教授、丹羽春喜助教授、杉山貞夫助教授、熊谷一綱宗教主事（助教授待遇）が昇任。
- ◇5月6日 新入生オリエンテーションを千刈キャンパスおよび多聞寺で行なった。
- ◇5月20日 米ライス大学教授 E. ノーベック教授の特別講義「最近の米国文化人類学の動向」を学部主催で行なった。
- ◇8月8日 竹内愛二教授が国際社会事業会議その他4つの関連会議に出席のため、ギリシャへ出発。9月28日帰学。
- ◇9月5日 賜暇により昨年6月末からカナダに帰国されていた L. B. グレアム教授が帰学。同教授はカナダ滞在中に関西学院大学カナダ探検隊長（昭和39年5月—8月）の任についた。
- ◇9月22日 小関藤一郎教授が、フランス政府と読売新聞社の協定による日仏交換科学者としてフランスへ出発。フランス滞在は半年の予定。

会員の新著 山中良知助教授「理性と信仰」（関西学院大学研究叢書第17篇）創文社、3月。
丹羽春喜助教授「厚生経済学と経済政策」（共著）泉文堂、4月。

学界消息

- ◇臨床心理学会関西部会
1月19日神戸 YMCA で開催され、本学部からは武田建講師が出席、「米国に於ける臨床心理教育の現状と問題点」と題して研究発表を行なった。
- ◇「有機体のオートメーション機能の心理学、生理学、電子工学的研究」の第4回研究委員会が、1月24日関西学院大学で開かれ、本学部杉山貞夫助教授が出席、「CFF と LDR の関係よりみた瞳孔直径の問題について」

と題して研究発表を行なった。

◇関西社会学会

5月16、17日、名古屋大学で第15回大会開催。本学部からは、牧講師が「リーダーシップの概念について」を報告した。シンポジウム〈産業化の諸問題〉では小関教授が「産業化の諸問題と産業社会学」を発題報告し、それに万成、倉田助教授および遠藤講師が討論者として参加した。

◇部落問題研究者全国集会

5月16日、同志社大学で開催。領家助教授が「部落の分布について」を発題報告した。

◇組織学会

5月16日、京都大学で関西部会を開催。塩原講師が「組織管理の一般理論」を報告した。

◇日本独文学会

5月16、17の両日、慶応義塾大学にて日本独文学会が開催され、本学部からは本岡五男助教授が参加した。

◇日本経済政策学会

昭和39年度日本経済政策学会大会は、5月23、24の両日、福岡大学において開催された。本大会では、日本の高度成長の再吟味・再評価に関する討論に重点が置かれたほか、多数の興味深い研究報告がなされ、大きな成果があげられた。本大会では、商学部宮田教授の報告をはじめ、全部で4つの研究報告が学院のスタッフによってなされるなど、関西学院諸教授の活躍が注目を集めた。社会学部からは丹羽春喜助教授が出席し、「簡単な連立方程式モデルによるソ連経済の成長分析」と題して研究報告を行なった（慶応大加藤助教授と共同報告）。

◇日本英文学会

第36回大会は5月23、24両日に、明治大学和泉校舎で開催され、本学部から半田一吉講師が出席した。

◇日本新聞学会

5月29、30日の両日、三島市の日本大学教養部で開かれた。第2日は、(I)「放送の社会的責任」、(II)『マス・コミ研究における理論と調査の結びつきをめぐって』、(III)「大学におけるジャーナリズム教育のありかた」の3部会に分れてシンポジウムがあり、本学部からは、藤原恵教授(III部会)、塩原勉講師(II部会)、津金沢聰広助手(I部会)が討論に参加した。

◇日本フランス語フランス文学会

昭和39年6月6、7日、日本フランス語フランス文学会の春季大会が学習院大学で開催された。本学部からは森川甫講師が出席した。

昭和39年8月24日から9月5日まで、日本フランス語

フランス文学会・文部省共催、在日フランス大使館後援の第2回夏期フランス語研修セミナーが軽井沢で開催された。ソルボンヌ大学より Matoré, Filliolet 両教授が参加し、語学、文学の諸問題に関して講義、実習、討論が行なわれた。本学部からは森川甫講師が出席した。

◇日本時事英語学会

7月4、5日の両日、南山大学で開かれ、「現代文学翻訳の可能性」、「ラジオ・テレビと時事英語」などについてシンポジウムが行なわれたほか、研究発表、名古屋 ACC 館長 Smith 博士の特別講演などがあった。本学部からは西尾朗教授が出席した。なお、同教授は3月、研究社出版の同学会編纂「時事英語教本(5)」の Sir Lawrence Bragg 著 'The Spirit of Science' の註解を執筆、また、昨年に引続き学会編纂の速読用教本編集委員を委嘱され、「時事英語教本(6)」を8月、研究社から出版した。

◇村落社会研究会

37年10月から村落社会研究会事務局を本学社会学部におく事を依頼され、「村研通信」の発行等を行なったが、38年10月15、16日神戸市須磨荘において第11回大会を行なった。共同課題は「都市との関連における村

落の変動」であった。余田博通教授、定平元四良助教授、倉田和四生・光吉利之講師が出席した。なお事務局は慶応義塾大学に引継いだ。

39年9月23、24日箱根強羅の静雲荘で第12回大会が開催された。共同課題は『『むら』の解体』で、余田博通教授と光吉利之講師が「むらの変化——丹後山村の事例」を発表した。総括討論では『むら』の概念が問題となった。

◇日本社会学会

9月26、27日、東京都立大学で第37回大会開催。本学部からの発表は例年になく多数におよんだ。産業・労働部会においては、大道教授・宇賀助手の「現代日本の牧師」、万成助教授の「日本のビジネス・エリートの職業経歴」、牧講師の「大企業停年退職者の流出過程」が、基礎理論部会においては宇賀助手の「維持の社会学・変化の社会学」がそれぞれ報告された。ウェーバー生涯百年記念の重点部会では塩原講師が「現代官僚制理論と M. ウェーバー」を報告した。なお都市部会では倉田助教授が討論者として参加した。

8月の学会理事選挙の結果、本学からは大道教授が新理事となった。